

製品名: HRPT2 / CDC73 (19W5) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe12208**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.25mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,FC 1:200-1:500
分子量	61kDa

抗原情報

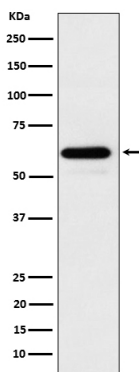
遺伝子名	CDC73
別名	Cdc73; FIHP; HPTJT; HRPT1; HRPT2; Hyperparathyroidism 2; HYX;
遺伝子 ID	79577.0
SwissProt ID	Q6P1J9
免疫原	ヒト HRPT2 の合成ペプチド

背景

腫瘍抑制因子は、おそらく転写および転写後制御経路に関与しています。サイクリン D1/PRAD1 発現の制御を介して細胞周期の進行に関与している可能性があります。腫瘍抑制因子は、おそらく転写および転写後制御経路に関与しています。サイクリン D1/PRAD1 発現の制御を介して細胞周期の進行に関与している可能性があります。PAF1 複合体 (PAF1C) の構成要素であり、RNA ポリメラーゼ II による転写中に複数の機能を持ち、胚性幹細胞の多能性の発生と維持の制御に関与しています。PAF1C は、POLR2A CTD の非リン酸化型および「Ser-2」および「Ser-5」がリン酸化されている型との相互作用を介して RNA ポリメラーゼ II と関連し、転写伸長に関与し、TCEA1 と独立して、または相乗的に作用し、DSIF 複合体および HTATSF1 と協力しています。PAF1C は Hox および Wnt 標的遺伝子の転写に必須である。PAF1C は造血に関与し、KMT2A/MLL1 の転写活性を刺激する。また、KMT2A/MLL1 再構成がん性タンパク質 (KMT2A/MLL1-MLLT3/AF9、KMT2A/MLL1-MLLT1/ENL など) との関連を通じて白血病誘発を促進する。PAF1C は、ヒストン H2B のユビキチン化やヒストン H3 の「Lys-4」 (H3K4me3) のメチル化などのヒストン修飾に関与する。PAF1C は、RNF20/40 E3 ユビキチンタンパク質リガーゼ複合体と E2 酵素 UBE2A または UBE2B をクロマチンにリクルートし、ヒストン H2B の「Lys-120」 (H2BK120ub1) のモノユビキチン化を媒介する。UBE2A/B を介した H2B ユビキチン化は転写と共役していると考えられています。PAF1C は、おそらく切断因子およびポリ A 因子との関連を介して mRNA の 3'末端形成に関与しています。インフルエンザ A 株 H3N2 に感染した場合、PAF1C はウイルスの NS1 タンパク質と結合し、遺伝子転写を制御します。PAF1C は、切断・ポリアデニル化特異性因子 (CPSF) 複合体、切断刺激因子 (CSTF) 複合体、そして Wnt シグナル伝達と結合します。mRNA 前駆体のポリアデニル化に関与しています。

研究分野

画像データ



293T 細胞溶解物中の HRPT2/CDC73 発現のウエスタンブロット解析。